

「笹川杯全国大学日本知識大会 2018」

感想文

目 次

對外經濟貿易大學	吳 娜	2
對外經濟貿易大學	奉 煜坤.....	3
對外經濟貿易大學	宇文志鴻.....	4
北京大學	邱 碩	5
北京大學	王 玥	6
北京大學	凌 歆歆.....	7
天津科技大學	王 衍洋.....	8
天津科技大學	張 杰	8
天津科技大學	朱 凱月.....	9
東北師範大學	周 方雨.....	10
東北師範大學	段 天承.....	11
東北師範大學	隋 曉周.....	12
黑龍江大學	陳 鑫	13
華東師範大學	于 洋	14
天津外國語大學	周 姍姍.....	15
東北財經大學	李春洋	15
福建師範大學	何 佳佳.....	16
華東理工大學	蔡弋鳴	17

今こうして思い返してみると、日本知識大会に参加したのはドラマチックなできごとでした。先生から頂いた通知には日本語弁論大会と日本知識大会が同時開催とあったのですが、その時点では別々のものという認識をしておらず弁論大会ひとつだけだと思っていたからです。4年生になると忙しくなって弁論大会の準備に時間を取れないと考えたため、申し込みはしませんでした。実はそれから少し後悔し続けていて、学業が忙しいとは言え参加してもなんとかできるのではと思っていました。弁論大会の申し込みが締め切られてから、先生とある日お話ししていたままたま大会のことが出てくると、参加を促してくれました。申し込みは締め切られているのでは、と言ったのですが。それから説明を伺ってやっと、ふたつの大会は別々なもので、日本知識大会には申し込みできると分かり、申し込んだのです。

そして史先生と寺田先生の引率で、宇文先輩、後輩の焜坤さんと、学院、専門、学年をまたぐ3人チームを結成しました。宇文先輩、焜坤くんは2人とも背が高くうらやましいほどです。宇文先輩は大人で人当たりがよく、とても先輩らしさがあり、文学の知識がとても豊富。焜坤くんは利発で感が鋭く、無理な問題に当たったときでもかなり高い確率で正解を見つけることができ、足下にも及べないのです（私は普段から運がないので、抽選や択一問題の類はだめなのです）。そんな2人の優秀なパートナーがいることはとても幸運で楽しいものでした。私の長所はと言えば真面目なことぐらいでしょう。専攻が日本語ではないし、日本語の授業も少なく、余暇に日本に関する本を読む時間もあまりなかったので、実は多くのことがわかっておらず、まして日本知識大会にはマイナーな、多くの日本人さえ知らない知識が出てくるのです。なので日本知識大会の練習の時、私は多くのウェブサイトに行って、多くの資料を調べ、日本についての知識の蓄積はめざましく発展しました。史先生と寺田先生はたいへん責任感があり、私達の練習を助けるためにとても苦労してくださいました。大会中は会場とホテルの行き帰りを史先生が車で送ってくださって、送迎してから先生ご本人は遅くまで残業ということさえありました。寺田先生は夏休みの一時帰国でわざわざ湯島天神のお守りを買って、必勝祈願の祈祷を受けてきてくださって、大会前には「好運」と「勇気」のバッジも買ってくださいました。この大会のための先生方の非の打ちどころがないご尽力にはとても感激しました。こんな先生方に恵まれたことも私の光栄です。

さて改めて大会の感想ですが。本当のことを言うと、やるべきことは全部やって、多くの日本の知識を蓄積したつもりで、先生方も太鼓判を押してくださいましたが、それでも受賞するチャンスの見通しは立たない気がしていました。参加チームがとても多く、各チームが少なからず準備しているうえ、運の良さもかかってきます。なので初戦を突破したときは喜びはしたものの、おおかた運がよかっただけだろうと思いました。チームメイト

も似たような気持ちだったようで、どちらにしても気楽に決勝に参加しようということになりました。こう言うと、平常心、気楽だとは言え、内心では計算もしていました。運が相当よければ決勝ランキング第3位には入れると思ったのです。大会では早押し問題でお手つきを二度してしまい、指定問題にも正解できなかつたので、本当にいやな気分になってしまいました。幸いすぐ焔坤さんと交替したのでトラブルは続きませんでした。結果は予想を超え、まったく思いも寄らないトップに！サプライズというべきでしょう、喜びより驚きのほうが強めの。

今回の日本旅行で日本の文化にとっても夢中になれることを期待しています。日本には何度行っても神秘のベールを開けないので、何度でも行きたいのです。とても日本で仕事がしたいのですが、残念なことに何件か面接に落ちてしまいました。もちろんまだ諦めていないので、今回の日本旅行で日本に対する認識をもっと深め、面接にも役立てて、早く日本で働けるようになりたいと思っています。(原文中国語)

対外経済貿易大学 奉 焔坤

時間が経つのは早いもので、笹川杯からはもう二ヶ月過ぎました。大会に出場決定から特等賞へ、今から振り返って見ても、まるで夢のような経験です。

去年6月の末頃、先生から笹川杯全国大学日本知識大会のことを聞いて、参加することに決めました。テストを受け、校内予選を通過し、三人メンバーの一人になりました。そこで、夏休みと共にやってきたのは特別課題です。先生の指導の元で三人で異なった分野を担当し、資料を探しながら自分で問題作成をしていました。私が担当したのは文化、スポーツ、政治と法律で、猛勉強してきました。その後、先生はまとまった問題を訂正してからまた私たちに配ります。9月になってから、課題を勉強した上で早押し練習も加え、充実した毎日です。いよいよ大会の日になりました。さすがに108校から突破するのは難しいかという自覚を持って、緊張感なしに見学半分の気持ちで大会に出ました。これまで何ヶ月の成果を生かし自分なり努力した結果、予選から決勝戦まで、考えたこともないと言っていいほど予想外の展開でした。特等賞のトロフィーも頂き、有り難い気持ちいっぱいです。

この大会を契機に、日本文化を始め、日本に対する理解も更に深めることもできました。日本語学科の学生として将来は何ができるのか、日本語を勉強している中国人として

責任は何なのかと改めて考えてみました。大島会長がおっしゃったとおり、両国間交流は民間交流が重要、特に若者の役割が大切です。今後も、中日友好の架け橋になる為、自分なりに頑張っていきたいです。最後にこの場を借りて、この大会を主催した日本科学協会の先生方と、私達の指導先生である寺田先生と史先生に感謝の気持ちをお伝えします。本当に色々ありがとうございました。2月の日本も、楽しみにしています。

対外経済貿易大学 宇文志鴻

今回は幸運で団体戦特等賞を受賞しまして、主催側の日本科学協会と北京大学、そして特別支援の日本財団に感謝の意を申し上げます！笹川杯は日本知識を核心にして交流と学習の場を提供してくださいまして、中国での日本語教育事業、さらに中日友好交流の推進に大きな貢献をして、まことにありがとうございます。

笹川杯を通じて、日本への理解が深めます。笹川杯のため準備しているうちに日本知識を専念に勉強する機会がもらいました。大学にも関連授業が設置されているが、知識内容と試験範囲が教科書に制限されていますので、自分で知識を探すことはありません。大会の出題範囲はさまざまな分野をカバーするので、知識大会のためにできるだけ多くの知識を接触しかありません。これからこのようなぎっしりスケジュールで日本知識を勉強する機会がないでしょう。それにしても、生活中に少しずつの知識を積み重ねなければなりません。

海のような知識に対して、自分が把握している知識は本のすこしであります。人生は限りがあり、どのように限りある時間を利用して生きているも学問であります。これからの勉強について、知識の広さだけでなく、もっとも知識の深さに集中していきたいと思えます。

さらに、この場を利用して、指導先生とチームメンバーにありがたい気持ちを伝えたいと思えます。先生は今度の試合のために細かい学習スケジュールを用意してくれました。日本知識を分かりやすく理解させて、友達のように一緒に戦います。夏休みの時にわざわざ湯島天神へお守りを持ってくださいました。先生のご指導がなければ、このような成績を取れることは有り得ません。これ以外に、団体戦と個人戦の異なるところは一人ぼっちで戦うことではない、三人寄れば文殊の知恵という諺があり、みんな三人が力を合わせて三人以上の力が出されます。

日本科学協会の先生方が私たちに素晴らしい観光スケジュールをしてくれたことに感謝いたします。我々は必ず今回の機会をしっかりと利用して、より近くに日本文化に接触して、自分の小さな力で中日友好関係を推進します。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

北京大学 邱碩

今回の笹川杯知識大会について、少し話したいことがある。最初は、今回の大会のために、準備しなければならない日本に関する知識がたくさんあって困ったなあと、大変心配になった。三か月間先生と先輩方の御指導のお陰で、なんとか大会出場できると思ったが。実際大会に参加したら、自分が甘すぎて、準備不足だと気づいた。大会の問題と自分が想像した問題はまったく違うもので、事前の訓練は意外に役に立たなかった。しかし、自分は大阪大学で一年間の交換留学の経験があって、日本文化、特に日本の宗教と日本茶道について様々な準備を取ってよかった。自分も実に運が強いと思っははられない。まあ、元々そういうことについて深い興味があるが、ずっと自分の興味だけだと思っ込んで、別にある日役に立つかもしれないことを期待してないけど。この度こういう「つまらない」知識のお陰で受賞できるのは本当にうれしいと感じている。今回の大会のために準備したものはあんまり大会の問題と関係がないんだが、より一層日本に関する知識を勉強したのは本当に今後の生活にも仕事にも大変有意義だと思う。僕は高校時代から日本の文化について興味を持って始めて、今まで三年間の大学の間もいろんな日本文化を勉強したが。大会を準備しながら、自分がまだまだ勉強不足で知識は実に足りないと感じた。これからも一生懸命勉強しなければならない。それから得る知識を活用し、自分の仕事にも日中親善にも力を入れる。今回の知識大会は本当に有意義なイベントだと思っ、主催者側の方々とスポンサー側の方々に感謝を申し上げます。

日本知識大会に参加して一等賞を獲得できたことはとてもうれしく光栄です。日本知識大会に参加したのは生まれて初めてです。テレビで似たような番組を見たことはありますが実際に参加したことはありませんでした。こんな大規模で有益なイベントに参加できて、北京大学日本語学科の先生と今大会を催した日本科学協会にとっても感謝しています。また、頼もしいチームメイト達と指導教官にもたいへん感謝しています。団体戦なので、3人みんなが各自の得意分野を発揮し、心を合わせたからだけでなく、劉先生の科学的でまじめな指導、作戦計画の制定も、成功した重要な要因です。

私個人にとって、日本知識大会に参加したことで多くの体験ができました。この大会のおかげで日本に対する認知の幅が広がり、日本語学科という専門とじっくり向き合うことができました。それまで、言語を学ぶことに対する認識は、言語をよく勉強して、同時にその国の知識をマスターすることでしたが、本当に日本知識大会の準備に着手したとき、やっとそれまでの日本に対する理解が少ないか大雑把な印象にすぎないものだったと気づきました。具体的な時期、数字、人名となると確かに完全な空白状態でしたが、日本知識大会の特徴は範囲が広範なことで、歴史から昨今の流行まである程度すべて知っていなければならないため、大会の準備をきっかけに私は日本の地図を覚え、日本の歴史と文学史を整理して、新しい単語と慣用語もたくさん暗記しました。準備していたとき、入賞しなくても無駄にはならないと思っていました。結局こうした知識は深く脳裏に刻まれているのです。大会がなかったら普段これほど努力して覚えたり読んだりしなかったでしょう。これはある意味かつてないよいことですね。

本番ではそれまでの予測が簡単すぎたと気づきました。実際に出された問題の難しさも新しさもふだんの練習してきたレベルを超えていました。最も印象深いのは「判じ物」というお題で、浮世絵と日本語の知識が融合されており、頭の体操にもなって、勝負強さと論理的な推理能力がとても試されました。ほかに印象に残っているのは浮世絵というテーマで、前に興味があって何冊かこの分野の本を読んでいたもので、このテーマが出たときびっくりして喜びました。そもそもの知識大会のテーマのタイプから離れている上それほど難しくもなかったのです。全体的に、この大会はやはり事前の準備がとても重要ではあるものの、ふだんの読書の蓄積や興味のほうが重要なのではと教えてくれたのですね。たぶん本当に大会で勝てる秘訣は知識を生活、探求と読書に溶けこませることです。(原文中国語)

日本知識大会に参加したかった理由はと言うと、109 大学 300 人以上の参加者それぞれの考えかたがあるでしょうが、自分は専門性を高めたかったからです。

学部 2 年生のとき明治大学へ交換留学に行ったことをよく覚えています。かなり長い間、講義中に日本語を口にできませんでした。日本語会話が下手なのではないか、また学んだ知識が浅いのではないかと心配だったので、日本の学生たちの前で自分の考えを表現できなかったのです。ですがある日、A さん B さん C さんの日本学生 3 人と『万葉集』についての PPT を作って討論していたとき、A さんが PPT の背景を桜にしようと提案して「日本の代表と言えば桜がだから」と言いました。それを聞いてびっくりした私は小声で「萩か梅の花にしたほうがいいですよ、確か『万葉集』に桜はあまり出てきません」と口にしたのです。みんなで調べてみると、萩は 140 首以上、梅は 120 首ありましたが、桜は 40 首ほどしかありませんでした。そのとき B さんが笑顔で「詳しいですね」と言ってくれましたが、C さんの言葉は忘れられません。「流石は日本語専攻！私たちは日本人だけれど専門家に教わることはたくさんあります」

その経験で日本語専攻の先生に教わった「日本語専攻の学生は専門家です。教科書の知識を学び各種の知識も身につけた皆さんは世界のどこへ行っても怖くありません」という話を思い起こしました。専門知識を磨いて専門性を高めることは、日本語専門の学生が共に追い求めて当然のことです。この目標に向かって奮闘したからこそ笹川杯全国大学生日本知識クイズ全国大会と出会い、各大学の学生と「専門能力」を比べる機会を得られたのです。

今年の知識大会は各試合で見事な場面が続出し、血が沸き立つものでした。勝利を確信しているチームは 1 つもなく、消極的なチームもありませんでした。すべてのチームが団結して、全力を尽くして最高のパフォーマンスを見せました。選手としても観客としても、それぞれに深く感動しました。この大会を通じてチームワークの大切さをより理解することができました。自分が中日の友好的交流の橋になれると放言する勇氣はありませんが、橋を架けるには基礎からなので、その基礎になれるよう努力したいと思っています。自分を磨いて専門性を高めるのがその第一歩でしょう。

主催者の皆さん、先生方、チームメイトの皆さん、対戦相手の皆さんに感謝しています。来年の大会も成功を収めますように。(原文中国語)

天津科技大学 王 衍洋

日本知識大会のような試合に参加するのは初めてです。だから、色々な感想があります。初めは今回の大会に参加することを知っている時、あんまり自信がありませんでした。あの時、先生から大会のルールや参加者の人数を聞いた後、とても難しい試合だと思いました。そして、北京大学について、各学校の皆様すごくすごい気がしましたので、優勝できるのは全然思いません。でも、実際に参加した後で難しい試合ですけど、とても面白いでした。さらに、あの日意外に運がいいので、一等賞を受賞しました。私にとって、これが最大のサプライズ、そしてこの試合の最大の成果だと思います。今回の試合を通して、いろいろな優秀な人に会いました。私自身、もともとは日本と日本の文化に対してとても興味があります。特に日本のアニメです。アニメを気かけて、日本語の勉強をはじめました。今回の大会を通じて、私は日本についてもっと理解しました。ある程度進歩しました。そして、自分の不足や欠点も気づきました。今後、絶えず努力しなければなりません。そして、今まで、私は日本語を勉強することに自信がありません。自分が日本語をうまく学ぶことができるかどうか分かりません。今回の大会をきっかけに、改めて自信を取り戻しました。主催者がこのような試合を開催してくれてありがとうございます。今後もしチャンスがあれば、必ずまた参加します。

私は今二年生ですから、まだ日本語が上手ではありません。以上の文章が何か文法の間違いがあつたら、どうぞお許してください。

天津科技大学 張 杰

あっという間に大学4年生になって、忙しい勉強の中で大学の最後の時間を迎えました。この段階のうちに、2018年笹川杯全国大学日本知識大会に参加し、自分の大学生活に彩りを加えました。

今回の日本の知識大会に参加することによって、普段の勉強では触れられないことがたくさんあります。言語学習者として、多くの言語の背景にある多彩な日本の世界を見ました。言語学習は、読み書きを聞くだけでなく、日本語的な素養を体現するのは、その国の文化を知ることができると思います。もちろん、私も日本という国に対する理解が乏しく、視野が狭いと感じました。だから、これからの仕事と勉強の中で、もっと積極的な態度で日本の文化を探っていきたいと思います。

同様に、試合中に師生の友情を収穫しました。私たちの学校のチームは、研究生の先輩、大二年生の後輩と四年生の私、そして佐藤寿先生からなっています。私たちは同じ趣味で出会って、積極的に準備して、同じ目標に向かって頑張って行って、私たちは良い友達になりました。また、試合現場では、四方八方からの日本語学習者と知り合うことができ、本当に幸いと思います。

今回の試合に参加する時、主催者は私たちのために宿泊と飲食を手配して、選手のために快適な環境を提供して、私たちの緊張感を緩めて、試合前の心配を消しました。ここでは、主催者にご感謝をします。

今回の試合に参加して、みんなで協力して、チームの精神を十分に発揮して、最終的に天津科学技術大学が団体一等賞の成績を獲得しました。そのまで2か月の努力の準備を思い出して、最も印象深いのは先生の関心と支持であり、困難にぶつかった時、私たちは諦めないように励ましてくれました。もう一度先生達にご感謝します。

今、これらの栄誉はすでに過去になって、私は新しい姿で新たな挑戦を迎えます。これからの勉強の中で、もっと大きな成績を上げて、先生や友人たちに恩返しをしましょう。

最後、ありがとうございました。

天津科技大学 朱 凱月

光陰矢の如し、あっという間に2018年もいきました。この一年を振り返ると、いろいろな思い出が溢れます。この中で一番印象深いのは、11月中旬に北京大学で主催した「笹川杯」日本知識大会に参加したことです。指導先生のお蔭で、団体の一等賞といういい成績を取りました。私にとって、非常に貴重な経験で、深い意味があると思っています。今日はこの「感想文」を持って、今度の大会を組織した笹川財団と北京大学、また多くの名を知らずボランティアの方々に、心からの感謝の気持ちを表したいです。その以外、今度の大会に対して自分の少しだけの感想を話したいです。

色々な事情で、準備時間がとても短くて、わずか一か月しかありません。正直に言うと、一か月間は全く足りません。日本知識大会は普段の学校での試験のように一か月間の復習を通していい成績が取れるというわけではありません。復習の範囲がないし、ポイント

もありません。短い時間で、最大の効率を発するために、チームワークがとても重要です。グループメンバの私たち三人は、得意な部分がそれぞれ違います。最後の一か月間に、私たちは各自の得意な部分が大変勉強しました。私は普段から日本の文学や文化について、非常に興味があって、多くのことを勉強しました。最後の一か月間に日本の文学史、日本の文化を系統的に何回も勉強しました。これより、やはり普段での知識の積み重ねは大事です。試合を前に、あまり自信がありませんが、簡単に諦めることをしたくないです。勝負を問わず、この試合をよく楽しみたいという気持ちを持って、決勝戦に入りました。最後に団体の一等賞を取ったのは、本当に思わなかったです。努力はもちろん大事ですが、運もよかったと思います。

今度の大会で多くの優秀の選手たちと出会って、日本知識についていろいろな交流を行いました。いい経験になって、とてもありがたいです。

東北師範大学 周 方雨

2018年11月17日、私と先輩、後輩3人が東北師範大学の代表として、北京大学で行われる笹川杯全国大学生日本知識大会に参加した。これは私の大学生活にとっても貴重で忘れられない経験だった。

今回の大会で、全国各地の大学から日本語を勉強している学生たちが集まって、素晴らしい試合ができた。予選戦のとき、幸いに早押しの段階で2問取ったかげで、うちのチームは決勝戦の段階に入った。決勝戦の時、試合を見に来る人も多くて、大会を主催する方々も現場にいらっしやっただので、ステージに踏む瞬間の私ははすごく緊張だった。そして、決勝戦のライバルたちも強いから、自分の全力を尽くしなかったと思います。

試合に、私は勝利がもたらした嬉しさも、負けた時の悔しさも味わった。最後受賞したのは幸運でありがたいと思う。今回の試合を通じて、自分が大学で学んだ知識が意義あると思う一方、身につけた知識の量とか、大会に出る時の自信力とか、まだまだ足りないところもあると深刻に認識した。試合だけではなく、休憩時間に北京大学の綺麗なキャンパスを散歩して、北京の秋の美しい景色が目映って、とても楽しかった。総じて言えば、今回の知識大会は、私の人生の大切な思い出に違いない。

試合のために、うちのチームは何ヶ月の指導を受けて、いっぱい練習した。受賞して、

選手の私たちだけではなく、試合の前に指導して下さった先生たちも喜んだ。もちろん、練習の時覚えた知識は全部正式の試合の問題に出てくるわけではないが、今回の試合のための準備を通じて、普段授業で教えない知識がたくさん知って、私たちにとって決して時間の無駄ではない。

私は普段クイズに興味があり、各方面の豆知識を探るのが熱心である。今回の知識大会のチャンスがあるのも私にとってとてもラッキーなことだと思う。なぜなら、自分が普段積みもった知識がその役割を果たすことができたからです。ところが、知識を探るのはただ試合のためではない。知識は必ず何かの利益をもたらしてくるとは言えない。知識は形のないうちの財産であり、自分自身の思想などを豊かにするものである。更に、今の情報社会には、情報を手に入れるのは以前よりいっそう便利になった。だから、様々な情報を通して世界を知って、私たちの視野を広げるもの自分を進歩させる一つの方法ではないか。

東北師範大学 段 天承

今回の笹川杯日本知識大会は僕にとっては初めでではなく二回目だ。2015年に天津より吉林大学に行って大会に参加した光景はよくありありと浮かぶ。当時の僕はまだ学部三年生であり、チーム内の小後輩だった。うちの学校はこの大会についての経験が一切なく、試合においてどのような問題が出るのか、試合のルールは何なのか、相手たちの実力はどのくらいかなどは、僕と先輩たちと指導先生とも知らなかった。自分の学ぶ限りで問題を答えステージにて戦ったが、結局は当然、予選で敗退してしまった。僕は悔しく思い、また自分の勉強不足と意識した。とくに決勝戦において、考える間もなく正解して拍手を博した先輩たちの姿は驚くほど印象的だった。日本語の専門生として、彼らような日本知識の達人にならねばならぬと僕が心で誓った。

3年後の去年に、僕が東北師範大学を代表して再び知識大会に参加したチャンスを得た。今回の僕はすでに修士二年生で、チーム内の大先輩となった。前回とは違い、うちのチームにおいて、各分野の知識を三人に分担し、早押し問題をめぐり対策を講じ、半年に亘った復習をなし、とにかく万般の準備をした。予選、準決勝戦……最後まで戦ってきた僕らがついに決勝戦のステージに立った。3年前の僕は向こうの観客席に座り決勝戦の選手たちの姿を羨ましく見るしかないが、今日の僕はこちらのステージに立ち最後の勝利のために戦っている。最後の勝敗はどうでもいい。この決勝戦のステージに立てることは、僕にとって満足だった。決勝戦において、うちのチームはいくつかの好機を逸し、ごく小さな差で

一等賞を逃し、結局第四位を取ったが、僕にとってもうちの大学にとっても、すでに最高記録だった。

喜ぶ一方、一等賞、特等賞、また個人戦で素晴らしい成績を取った真の達人たちとの差をも、再び深く意識した。来月の日本見学においては、謙遜な態度で達人たちにまた日本の先生たちに、日本につくさまざまな知識を身に付け、真の「知日派」の一中国人になるためにつづけて頑張ります。

東北師範大学 隋 暁周

2018年笹川杯全国日本知識大会はもう順調に終わった。今から見ると、当時の緊張して面白い大会は、私にとっては貴い体験である。この大会の意味と醍醐味は何かもはっきり分かるようになった。

賞を取る、取らないはとにかく、知識大会そのものは良い橋として、中日両国の文化交流に積極的な寄与をする。更に、私にとっての醍醐味は、まず一緒に頑張っているチームメイトと友達になった。同じ日本語学科の学生なのに、以前は全然お互いに知らなかった関係で、今回の大会は知り合ったきっかけとなった。

また、大会の前に、私たちは二か月間の訓練をしていて、各方面に日本に関する知識を勉強し、総合的に自分の日本語能力を上げた。特に、平日の授業に、日本地理の内容はあまり詳しくなく、知識大会のための訓練は良い機会として、日本地理への理解は一層深くなった。言い換えれば、これは全面的に日本を理解するチャンスだと思っている。

ところで、大会の中で、一番面白い問題は、絵を見て、その内容と相応しい答えはどちらのかというものだ。例えば、絵の内容は湯の中に琵琶がある。相応の答えは「指輪（ゆびわ）」となるにはほかならない。このような問題が今回の大会に相当の面白さを添えた。また、自分がまだまだ足りないということが身に染みた。ここからも知識欲を持っていて、諦めなく勉強しようとする。機会があれば、友達や家族に日本の優れる点を紹介したいと思う。客観的に日本を認識したり、好意的な態度をとることに私の力を入れて、日本と親しむことを願っている。

そして、選手たちが北京大学を見学し、全国各地の日本語学科の先生と学生を交流し、

今後はどのように勉強するのか大事な経験を積もった。それだけでなく、二月に日本へ見学することに、冥利に尽きると感じられて、楽しんでいる。

最後に、北京大学、日本科学協会の皆様が素晴らしい大会を開催して、中国の学生に交流機会を提供することに、心から感謝する。

黒龍江大学 陳 鑫

今回の北京大学で行われた日本知識大会に参加できて、そして、成績を得られて、非常に光栄だと思う。

最初に学校の先生に日本知識大会に参加するチャンスがあると言われたときに、これは絶対に参加しないと損すると思っていた。なぜなら、自分は普段からよく日本の『Qさま』や『くりいむクイズミラクルナイン』といったクイズ番組を見ているのである。しかも、中のお題に答えられるときの少ない。必ずいつか一回クイズ大会に参加してみたいとずっと思っていた。せっかくこのような機会がやってきたので、思わず申し込んだ。

申し込んだ後には、半年間の準備が欠かせない。当時はまだ日本にいたので、日本社会に関する内容を実際に体験できたわけで、クイズ大会のためにもなったと思う。文学やアニメなどの苦手な分野は一生懸命覚えていた。非常に多くの努力を重ねたと思う。

いよいよ本番になった。最初は団体戦だったが、準備の不十分もあるが、運がそんなに良くなかったというのもあったと思って、惨敗としか言えないぐらいに予選落ちという結果だった。団体戦が終わった後も、個人戦の準備を諦めずに、しっかりと覚えていた。普段のクイズ番組を見ているのと日本で生活した経験のおかげで、筆記問題はしっかりと点数を取れて、準決勝まで進出できた。準決勝の時は危うく、決勝まで進出できないかと思っていたが、運よく最後の一问を取れて、決勝戦まで進出できた。決勝戦のときは謹んで一问一问に答えて、少し残念な個人戦二位という成績でもあるけれども、自分が普段見ている番組に感謝しないといけないと思う。

準優勝を得られて、2月にまた日本に行くことができ、非常にうれしいと思う。日本での交流学習の中で、より日本に対する理解を深められると思う。今回の日本への旅を楽しみにしている。そして、またこれからの日本知識大会が順調に行われるよう、そして、中

日友好が続けられるように祈る。

華東師範大学 于 洋

初志貫徹

十一月の北京は、天高く馬肥ゆる秋とともに、全国各地大学からの錚々たるメンバーを北京大学で集め、年に一度の日本知識大会を迎えてきた。実は、知識大会に出るのはもう二回目であり、わたしにとっては人生の正念場でもある。参加させていただき、感謝している。前回上海交通大学で開催した知識大会で苦戦を強いられ、惨敗した後の楽しくて悔しいような複雑な気持ちはいまだに鮮明に覚えている。楽しいと思ったのは、各大学からの優秀な学生と競技し、普段テレビでしか味わえない早押しクイズを実体験できたからだ。一方で、悔しいと思ったのは、早押しボタンを押すタイミングを見逃して解答権すら手に入らなかったりし、それに実力不足で早々に退場したためであった。自信過剰で不器用な自分を責めたりしてもどうにもならない状態で、ほかの選手たちが活躍する姿を見ると、さらに優秀な自分になってから必ずこの戦場に戻り、リベンジを果たすと決意した。

しかし、大会を勝ち抜くには、容易なことではない。日本に関する知識を網羅的に把握し、膨大な知識量が必要なので、日々の努力が要求されている。自分の得意な分野を極めたりするだけではとても勝てられなく、苦手なジャンルも克服しなければならない。大会で惨敗して以来、スポンジのように日本に関する情報を吸収し始めた。パズルゲームをするように、日本のことを無数のピースから壁一面に広げられた絵画に組み合わせてみはじめた。勉強すれば勉強するほど自分が知日派になるという目標を達成するにはまだ程遠いと分かりつつ、目標達成に近づいていると実感している。努力した結果として、今年の知識大会で運がよく賞を取れ、リベンジを果たせた。それより、大会で良い成績を収めようが収めまいが、自分が大いに成長したことが確かなのである。それは去年の知識大会で惨敗したおかげで、惨めな思いが努力する原動力となったので、今の私をつくっており、きっと未来への糧となるのだろう。

改めて日本知識大会に心より感謝申し上げます。

天津外国語大学 周 姍姍

去年は初めて大会で受賞して、日本という近いような、遠いような国への初訪問が実現できました。自分の人生を変えたと言えるぐらい、貴重な経験でした。帰国してからもずっと「また行きたい、もっと知りたい」と思っていました。そして何より、団体戦で負けたけど、一緒に頑張ってきたメンバーにも沖縄の真っ青な海を見せたい、地元で触れ合った日本人の親切さを感じてほしいんです。

夏休みに入る前に、先生にもう一度参加しないかと打診された。受賞できないなら情けないじゃないかとやや不安だったけど、今度こそ三人で受賞して、念願の日本に行こうという考えに駆られて、ぜひ参加したいと答えました。

前回の経験もあったので、基本知識なら一つの間違いも許さないのは言うまでもなく、今年もっと広範囲の知識を網羅しなければなりません。早速クイズ問題を載せた日本のサイトをいくつか見つけて、数十万以上の問題に目を通そうと始めました。しかし思いがけないことに、一週間後そのサイトはなぜか見られなくなりました。一万問も見終われなくて、もっと早くすればよかったのに悔しくてたまらなかつたんです。

そのようなエピソードもあるように、様々な困難にぶち当たりましたが、チームの力で乗り越えて、全身全霊で頑張ってきました。残念なことに最後まで残らなかつたです。それでも、チームの二人は自分が日本に行けなくても落ち込んだ気持ちを抑えて、「先輩おめでとう、よかったね」と笑顔で祝ってくれました。ありがとう。メンバー間の絆は知識大会がくれた、かけがえのない宝物です。

大会をきっかけに、日本の関連知識を勉強するのはすでに趣味になっています。今の私にとって、忙しい勉強の合間に日本のクイズ番組を見るのは一番の息抜きです。また、週末に日本語を副専攻とする学生を教える時、よくそういう教科書に書いていない知識を話したりします。学生はいつも興味津々で聞いてくれます。微力ながら、より多くの人に自分の知っている日本の知識をできるだけ客観的に伝えればうれしいと思います。

東北財経大学 李春洋

今回の大会での私の経験を表すことができる言葉があれば、私はそれがラッキーだと思います。

います。

元々は賞をもらえるとは思わなかったです。個人戦終わった後、私はずっとホテルにいて、アニメを見ることで夜を過ごそうとしていましたが、夜の10時30分ごろ、準決勝進出することができるというメッセージを受け取りました。私はすごく驚いて、すぐにこれについて先生に報告しました。先生は翌日早く帰る準備をしていたところでしたのにな。

準決勝もすごくラッキーでした。二人対戦の最初は不利な立場にあり、10点遅れていましたが、最後の質問が相手のミスで一時的に引き分ける状況になりました。延長戦で、私は偶然に非常に簡単な質問に出会うことで、先手の優位性を利用して決勝に参戦することができました。ですから、すごくラッキーだと言えます。

今回の大会を通じて、知識を尽きることができないことを私はしみじみと感じました。早く準備して、たくさんの資料や本を読んで、たくさんの質問を答えて、たくさんの模擬試験を実行しましたが、それでも本番になると、まだたくさんの質問を答えられなかったです。自信満々で、私が知らない日本の知識はないつもりでしたが、本番の時には「こんなことも質問になれるものか」と驚くことを禁じを得ないです。恥ずかしいですが、私は実際には文学がとても好きな人ですが、それでも大会で文学についての質問に、答えられないのが多かったです。知識は無尽蔵であると感じ、自分の知識は不足していると深く感じます。

私はまた、すべてが知識になり得るという非常に重要な感想を持つようになりました。文学、歴史、地理などのものだけが知識と言えらると思いましたが、この大会に参加した後、高速道路の名前を覚えることは知識、アニメのキャラクターの名前を覚えることは知識、絵から単語を推測することも知識と呼ばれるのがわかりました。この大会を通じて、私は知識の定義を一変させ、人生に対する態度を見直すことができましたと言えます。

福建師範大学 何 佳佳

2018年「笹川杯」日本知識大会に参加できたことを感謝している。北京での二日間を楽しく過ごした。視野も広がったし、友達もできたので、非常にうれしい。この経験は一生の思い出で、忘れないようにしたいと思う。

知識大会の準備は七月から始めた。夏休みなのに、今回の知識大会の準備をするために、10日間くらい授業を受けた。また、9月から日本知識大会の日まで、毎週日本の歴史や文学史や政治などの豆知識を覚えた。つらかったが、しかし、この数ヶ月で自分の知識が豊かになったし、日本への理解も深まってきた。

11月17日、いよいよ2018年「笹川杯」日本知識大会が北京大学で開催される日が来た。初めて自校を代表して、このような大規模な知識大会に出場し、全国108校の大学からの優秀な学生と北京大学の舞台上で戦うことができたことを光栄に思う。団体戦では、いい成績を取ることができなかったが、個人戦では二等賞を受賞した。北京に行く前、賞をもらえるかどうかについてはあまり考えなかった。ただ、日本知識大会に参加するからには、成績がいいか悪いかはともかく、力を入れて準備するべきだと思っていた。努力はイコール成功ではないが、努力しないとけっして成功できない。何より嬉しいのは、私の努力は無駄にならなかったのだ。

日本語学科の学生として、日本のこと、日本人のことを知らないといけない。日本のアニメやドラマなどをよく見るし、日本事情の授業も日本文学史の授業も受けたことがあるが、日本に対する理解はまだ浅い。今回日本知識大会に参加したことをきっかけに、様々な日本に関する本を読んで、日本への理解はより一層深まってきた。日本語を勉強している私は、将来、日本語と関係のある仕事をするかどうかに関わらず、日本人と付き合う機会はきっとあるだろうと思う。その場合、日本の文化や習慣をよく知っていれば、日本人といい関係を作ることができるのではないかと思う。

日本知識大会の舞台上に立った経験は私の人生の大切な思い出だ。

華東理工大学 蔡弋鳴

求めよう、さらば与えられん

上海行きのブレットトレインに乗った私は北京で撮った写真を楽しみながら思いを馳せていきました。

今回の知識大会に出たのはもう二回です。去年はうちの学校の初登場で、経験不足のせいか、良い成績をおさめることはできませんでした。大会に出る前に自信满满だったの

に、実際問題を見たときの私は智恵を絞っても正解を選べられませんでした。「へええ、ここまでか？」としか愚痴を零さなかったのです。

確かにこの知識大会は日本語専門の私たちにとっては大きなチャレンジであります。去年は交通大学で行われました。決勝戦を観戦したとき、皆さんに感心してやまなかったのです。「本当にすごいなあ。」と。「来年こそ。リベンジしよう。」と指導先生に励まされました。

いよいよ今年。準備のうちに充実した日々を過ごしていました。今まで気づいていなかったことをもう一度発見したり、もう見たことをより深く吟味したり、日本への理解を深めるようになりました。「そうですか」、「なるほどねえ」という会得のときの楽しみは実に何よりでした。

決勝戦の舞台に上がったときの私は本当に感謝の気持ちを持っていました。指導先生にも日本科学協会にもありがたくおもいました。この大会に恵まれ、知識を深め、見解を磨かせることもできました。好きな英語のフレーズに「been there done that」というのはあります。人生は旅なり。この知識大会は絵葉書のように記憶にキラキラと輝いています。